

# 音楽で出会う堀辰雄

蓄音機・SPレコードで聴く

庄司達也

(横浜市立大学)

## I 堀辰雄旧蔵蓄音機

日本製(製造元不明・山野楽器製「オルソトン2号」に酷似)。一九二九(昭和一四)年、鎌倉にて購入(堀多恵子「辰雄の作品と音楽と」CD『堀辰雄の芸術 堀辰雄愛蔵SPレコードより』平成3・8、ビクター音楽産業)  
\* 軽井沢高原文庫所蔵(一九八五年に堀多恵子氏より受贈)

## II 堀辰雄旧蔵SPレコード

堀辰雄文学記念館に堀辰雄旧蔵SPレコードが保存され、リスト「蔵書目録 SPレコード」を作成、公開。  
\* 旧蔵SPレコードのうち、モーツァルト「幻想曲 ハ短調 K475」(ラザール・レヴィ ピアノ)の1枚のみがフランス製で、それ以外は全て日本製である。



## III 堀辰雄と西洋音楽 作品・エッセイ・書簡／回想から

### i. 作品・エッセイに登場する音楽たち

#### ① 「美しい村」「美しい村 或いは小遁走曲」(『改造』昭和8・10)

そんな風に思ひ出に導かれるままに、村をそんな遠くの方まで知らず識らず歩いて来てしまった私は、今更のやうに自分も健康になったものだなあ、と思つた。私はさういふ長い散歩によつて一層生き生きした呼吸をしてゐる自分自身を見出した。それにこの土地に滞在してからまだ一週間かそこいらにしかならないけれど、この高原の初夏の氣候が早くも私の肉体の上にも精神の上にも或る影響を与へ出してゐることは否めなかつた。夏はもう何処にでも見つけられるが、それでゐてまだ何処といふ的もないであると言つたやうな自然の中を、かうしてさ迷ひながら、あちこちの灌木の枝には注意さへすれば無数の荳が認められ、それ等はやがて咲き出すだらうが、しかしそれ等は真夏の季節の来ない前に散つてしまふやうな種類の花ばかりなので、それ等の咲き揃ふのを楽しむのは私一人だけであらうと言ふ想像なんかをしてゐると、それはこんな淋しい田舎暮しのやうな高価な犠牲を払ふだけの値は十分にあると言つていいほどの、人知れぬ悦楽のやうに思はれてくるのだつた。さうして私はいつしか「田園交響曲」の第一楽章が人々に与へる快い感動に似たもので心を一ぱいにさせてゐた。さうして都会に居た頃の私はあんまり自分のほんやりした不幸を誇張し過ぎて考へてゐたのではないかと疑ひ出したほどだつた。こんなことなら何もあんなにまで苦しまなくともよかつたのだと私は思ひもした。さうして最近私を苦しめてゐた恋愛事件をそつくりそのままに書いてみたら、その苦しみそのものにも氣に入るだらうし、私にはまだよく解らずにゐる相手の氣持もいくらか明瞭はしないかと思つて、却つてさういふ私自身の不幸をあてにして仕事をしに来た私は、ために困惑したほどであつた。私はてんでもうそんなものを取り上げてみようといふ氣持すらなくなつてしまつたのだ。で、私は仕事の方はそのまま打棄らかして、毎日のやうに散歩ばかりしてゐた。さうして私は私の散歩区域を日毎に拵けて行つた。

\* 傍線部分の初出(『改造』本文)

さうして私はいつしか田舎に於ける楽しき心の目覚めと言つたやうなものをさへ感じ出してゐた。

#### ♪ ベートーヴェン 「交響曲第六番「田園」第一楽章」

#### ② 「美しい村」「美しい村 或いは小遁走曲」(同前)

「或る午後、雨のちよつとした晴れ間を見て、もうぼつぼつ外人たちの這入りだした別荘の並んでゐる水車の道のほつりを私が散歩をしてゐたら、チェッコスロヴァキア公使館の別荘の中から誰かがピアノを稽古してゐるらしい音が聞えて来た。私はその隣りのまだ空いてゐる別荘の庭へ這入りこんで、しばらくそれに耳を傾けてゐた。バツハのト短調の遁走曲らしかつた。あの一つの旋律が繰り返され繰り返されてゐるうちに曲が少しずつ展開して行く、それがまた更に稽古をしてゐるために三四回宛ひとところを繰り返されてゐるので、一層それがたゆたひがちになつてゐる。……それを聴いてゐるうちに、私はまるで魔にでも憑かれたやうな薄氣味のわるい笑ひを浮べ出してゐた。そのピアノの音のたゆたひがちな効果が、この頃ころの私の小説を考へ悩んでゐる、そのうちにそれがどうやら少しづつ発展して来てゐるやうな氣もする、そう言つた私のものどかしい氣持さながらであつたからだ。

#### ♪ バッハ「ト短調 遁走曲」

#### ③ 「(「美しい村」ノオト)」葛巻義敏宛書簡(「六月二十四日」)『全集第七卷(下)』

昨日、雨の晴れ間を愛宕山(片山さんの別荘のあたり)を散歩してゐたら、チェッコ公使館の別荘からピアノを稽古してゐる音がきこえてきた。僕はしばらくその隣りの空別荘の中へはひつて耳を傾けてゐた。バツハの遁走曲だ。あの一つのイデエが繰り返され繰り返されてゐるうちに少しづつ発展してゆく——そいつを更に練習のために、三・四度ひとところを繰り返してゐる……そのたゆたひがちな音が、僕のこの頃の小説を考へなやんでゐる、そのうちそれが少しづつ発展してゆくやうな氣がする、さういつた氣持さながらであつた。――

「僕は今月末、ちよつとまた上京するかも知れないが、さうしたらその通走曲のレコードを買はうと思つてゐる。さうしてそのレコード」「今度」この小説を読む前にはひとつ「そ」バツハの通走曲を、レコードでいいから、聴いてください、とその小説の冒頭に「でも書」述べておいて、いゝくらゐに今でも思つてゐる。

#### ④ 「木の十字架」(『知性』昭和15・7)

その立原は、しかし、その春の末私達が結婚しようとしてゐたときは、まだなかなか元気で、病後の私のために何かと一人で面倒を見てくれたのだつた。さうして結婚するや否や、誰にも知らさずに、すぐ軽井沢に立つてきた私達に、次ぎのやうな手紙を添へて、私達にささやかな贈り物をしてくれた。——「御結婚のおよろこびを申し上げます。お祝ひのしるしにフランスの『木の十字架』教会の少年たちのうたつた聖歌をお贈りいたします。美しい村でおくらしになる日、森のなかの草舎でこの歌がきかれる初夏、花々のことなど、一切のけふのあはれに美しい僕の夢想を花束に編んで、それに添へた心持でお贈りいたします。それからもうひとつのは、去年の秋の奇妙な出来事が僕にえらばせた歌なのですが、これはお祝いのしるしといふのではなしに、ただ、あの不意に家のなくなつてしまつた日のかたみのために、高原の村ぐらしのなかにお持ちになつていただきたかつたのでございます。沢山の幸福とよろこびと潤沢な日々とを恵まれますやうに。道造」——その贈り物といふのは二枚のレコードで、その一つはフランス旧教会ラ・クロア・ド・ボア教会小聖歌隊の合唱したヴィットリアの「アヴェ・マリア」とパレストリーナの「贖主の聖母よ」。もう一つはクロオド・パスカルといふ少年歌手の独唱したドビュッシイの晩年の歌曲「もう家もない子等のクリスマス」。——文中の去年の秋の出来事といふのは、私や立原なんぞが一しよに暮してゐた追分の脇本陣(油屋)が火事になつて二人とも着のま着のままに焼け出された出来事のことである。——私達はその贈り物をよるこんで受けて、わざわざ山の家まで携へてきたが、小さなポオブル位はなんとか手に入れて持つてくる筈だつたのがうまく行かなくて、只その贈り物は机の上に飾つておいた。とうとうその山の家ではそれを一度も聴く機会が得られなかつた。：

♪ ヴィットリア 「アヴェ・マリア」  
♪ パレストリーナ 「贖主の聖母よ」

♪ ラ・クロア・ド・ボア教会小聖歌隊 (木の十字架少年合唱団)

♪ ドビュッシイ 「もう家もない子のクリスマス」

♪ クロオド・パスカル (ボーイソプラノ)

#### ⑤ 「木の十字架」(同前)

私達が結婚祝いに立原から貰つたクロア・ド・ボア教会の少年達の歌やドビュッシイの歌のレコードをはじめて聴いたのは、その翌年の春さきに、なんだかまるで夢みたいに彼が死んでいつてしまつた後からだつた。私達はそのレコードを友人の家に携えていつて、それをはじめて聴いたのである。それから、その夏(去年)軽井沢へ往つたときは漸く宿望の蓄音機をもつていけたので、私の好きなシヨパンの「前奏曲」やセザール・フランクの「ソナタ」なんぞの間にときどきその二枚の小さなレコードをかけては、とうとうこれがあいつの形見になつてしまつたのかと思ふようになった。私はその二つの曲の中では、ドビュッシイの近代的な歌よりも、寧むしろイタリアの古拙な聖歌の方を好んだ。それらのゴブラン織のような合唱の中を、風のように去来する可憐なボーイ・ソプラノはなんとも云えず美しいものだった。

♪ シヨパン 「前奏曲」

♪ アルフレッド・コルトー (ピアノ)

◎ 日ビクター 六七一五〜六七一八 (4枚)

♪ フランク 「ヴァイオリン・ソナタ イ長調」

♪ ジャック・テイボー (ヴァイオリン)

♪ アルフレッド・コルトー (ピアノ)

◎ 日ビクター 八一七五〜七八 (4枚)

#### ⑥ 「狐の手套」「九、ゲエテの「冬のハルツに旅す」」「一橋新聞」昭和15・1・1

ゲエテの「冬のハルツに旅す」の断章にブラームスが作曲したアルト・ラプソディを、一週間ばかり前からレコードでをりをり聴いてゐるが、どうもそれを唱つたオネエギンといふ女のひとの、すこし北歐訛りのある陰影に富んだ、底光りのする歌、多分がすつかり耳についてしまつてゐる。夜など、ふと目をさますと、その歌が耳の底から蘇つてくるやうである。……しかし、ずつと病牀にゐる私は、ついおつくふにしてそのドイツ語の歌詞を分らないままにしておいたが、けさ漸く小康を得たやうなので、ゲエテの詩集をもつて來させて、それを讀んでみた。かなり難解な詩であつて、二度三度と讀みかへして、漸くその詩の意味が分かるやうになつた。

♪ ブラームス 「アルト・ラプソディ」

♪ ジークリート・オネーギン (コントラルト)

♪ クルト・ジンガー (指揮)

♪ ベルリン国立歌劇場弦楽団

♪ ベルリン・ドクトル合唱団

◎ 日ビクター 七四一七〜一八 (2枚)

ii. 書簡に記述された音楽たち

① 書簡360 田中喜代子宛 昭和14・8・24 / ② 書簡361 田中喜代子宛 昭和14・9・10

三〇 八月二十四日 軽井澤六三八より  
田中喜代子宛 (封書―速達便)

一、冬の旅 (シユウベルト) 獨唱ヒユツシユ

ビクター JD三五七―六二 九枚  
JF五〇―二

☆

☆

一、四重奏曲第十五番 (ベエトオヴェン)

カペエ絃樂四重奏團

コロンビア J七五六二―六六 五枚  
傑作集八八

二、ヴァイオリン・ソナタ長調 (バッハ)

(ヴァイオリン) プツシユ

(ピアノ) ゼルキン

ビクター DB一四三四 一枚

三一

九月十日 (月日推定) 軽井澤六三八より  
田中喜代子宛 (封書)

けふ送つていただいたアルバム及び解説は何かの間違で同じベエトオヴェン作四重奏曲第十四のもの  
ものでした (こなひだ僕の求めたのは四重奏曲第十五です) ですが又取かへて貰つたりするのは  
大へんだし、それに四重奏曲第十四の方もいづれ買ひたいと思つてゐましたので、それでその方  
も買ふことにします―ですから、今度それを取寄せていただくわけですが、そのときはよくレ  
コード屋にわけを話して、どうぞアルバム並びに解説だけはこの前求めた四重奏曲第十五の方を  
取寄せていただくやうにくれぐれも願ひします 別にこちらは急ぎませんので  
(傑作集八八)

四重奏曲第十四

ベーターヴェン作品一三二

カペエ四重奏團 コロンビア傑作集八八

のレコード (全五枚) 及び、この前求めた、即ち

四重奏曲第十五

ベーターヴェン作品一三二

コロンビア傑作集八八

のアルバム及び解説の両方が揃ひ次第、求めたいと思ひます 又間違へるといけませんから今度  
は、両方が揃つてから入手するやうにしたいと思ひます よろしく願ひいたします 急ぎ  
ませんから (バッハの方はもうあきらめます)

♩ シューベルト「冬の旅」

♩ ゲルハルト・ヒユツシユ (バリトン)

◎ 日ビクター JD三五七〜三六二 / JF五〇〜五二 (9枚)

♩ ベーターヴェン「四重奏曲 第十五番」

カペエ絃樂四重奏團

◎ 日コロンビア J七五六二〜六六 (5枚)

♩ バッハ「ヴァイオリン・ソナタ ト長調」

アドルフ・ブツシユ (ヴァイオリン)

ルドルフ・ゼルキン (ピアノ)

♩ ベーターヴェン DB一四三四 (1枚)

カペエ絃樂四重奏團

◎ 日コロンビア J七五二九〜三三 (5枚)

### iii 堀辰雄周辺の回想から

① 堀多恵子「辰雄の作品と音楽と」(CD 『堀辰雄の芸術 堀辰雄愛蔵SPレコードより』平成3・8、ビクター音楽産業)

私が辰雄と一緒に生活するようになったのはそれから5年ほど後の昭和13年の春からだ。結婚の祝いに立原道造さんから贈られた2枚のレコード、ラ・クロア・ド・ポア教会の聖歌隊が合唱したヴィットリアの「アヴェ・マリア」とパレストリーナの「贖主の聖母よ」。もう1枚はクロード・パスカルという少年歌手の独唱したドビュッシーの晩年の歌曲「もう家もない子等のクリスマス」であった私たちはこの2枚のレコードを大切に山に持って行ったが、それを聞く蓄音機がなかった。

(中略)

「菜穂子」は長い間あたためていた作品で、この小説が書き上がる迄にはシヨパンの「前奏曲」やシューベルトの「冬の旅」は大きな助けであったと思う。

♪ ヴィットリア「アヴェ・マリア」(前掲 i ④ 堀辰雄「木の十字架」)

♪ パレストリーナ「贖主の聖母よ」(前掲 i ④ 堀辰雄「木の十字架」)

♪ ドビュッシー「もう家もない子のクリスマス」(前掲 i ④ 堀辰雄「木の十字架」)

♪ ショパン「前奏曲」(前掲 i ⑤ 堀辰雄「木の十字架」)

♪ シューベルト「冬の旅」(前掲 ii ① 堀辰雄「田中喜代子宛書簡」)

\* 「菜穂子」

② 中村真一郎「堀辰雄と文学」(前出『堀辰雄の芸術 堀辰雄愛蔵SPレコードより』昭和16・3)、「目覚め」(『文学界』昭和16・9。後に「楡の家」第二部)として発表し、昭和16年11月に創元社より単行本『菜穂子』として刊行。

私が堀さんと親しくさせていたいたしたのは、「風立ちぬ」の頃からだったが、堀さんはデュ・ポスの美しい日記などにながされて、更にバッハに傾倒し、「ブランデンブルグ協奏曲」の全曲のレコードを入手した時は、嬉しそうに私に聴かせてくれた。またベートーヴェンでは、晩年の「弦楽四重奏」などに興味が移って行っていた。

♪ バッハ「ブランデンブルグ協奏曲」

ブッシュ室内合奏団

◎ 日コロンビア B 1 5 14

♪ バッハ「シリアーナ」

アドルフ・ブツシュ(ヴァイオリン)

ルドルフ・ゼルキン(ピアノ)

◎ 右の「ブランデンブルグ協奏曲」第一番「3枚目(B3)の裏面に録音されている。

♪ ベートーヴェン「四重奏曲 第十五番」(前掲 ii ① 堀辰雄「田中喜代子宛書簡」)

♪ ベートーヴェン「四重奏曲 第十四番」(前掲 ii ① 堀辰雄「田中喜代子宛書簡」)

\* 「風立ちぬ」

「風立ちぬ」(『改造』昭和11・12)、「冬」(『文藝春秋』昭和12・1)、「婚約」(『新女苑』昭和12・4)、「死のかげの谷」(昭和13・3)として発表し、昭和13年4月に野田書房より単行本『風立ちぬ』として刊行。